

音訳ボランティアステップアップ研修会

公益財団法人 仙台市市民文化事業団
〒981-0904 宮城県仙台市青葉区旭ヶ丘 3-27-5

助成事業の概要

実施目的

音訳ボランティアのステップアップ研修会。図や写真の処理の仕方などを学び、よりよい録音図書制作を行い、目の不自由な方への情報提供を行う。

実施時期

1. 「処理の仕方」研修

7月17日（木）

14時～17時、18日（金）10時～14時

場所 メディアテーク7階スタジオb

講師：熊谷成子氏（全国視覚障害者情報提供施設協会 録音図書委員）

受講者 22名

音訳における図や写真等のよりわかりやすい説明方法を学ぶ。

2. DR-1 講座

中級講座

9月18日（木）14時～16時

会場 メディアテーク7階スタジオb

講師：シナノケンシより派遣

受講者 12名

DR-1 のより便利な使い方を学ぶ。おもに質疑応答を中心に開催。

初級講座

9月27日（土）14時～17時

場所 メディアテーク7階 スタジオb

受講者 2名

音訳資料録音ができるために必要な操作を学ぶ。

3. 校正研修会

10月1日、8日、15日、29日、11月5日
いずれも水曜日 13時～15時

場所 宮城県視覚障害者情報センター 3階

受講者 26名

音訳の校正について基本的なことを中心に学ぶ。

事業の成果

1. 「処理の仕方」

表や図、写真の説明は音訳ボランティアが苦手としている。今回はこの分野でのスペシャリストでもある、熊谷成子氏に研修を行っていただいた。実際の処理モデルを聞きながら、どこがわかりやすく、どのような説明がわかりやすいのか的確な話をいただいた。

今回の講座を受けて、表や図、写真の説明に対する苦手意識が、ある程度克服できたようだ。また、実際に処理を行うときに積極的な提案をいただくようになり、自信につながったと考えられる。

2. 「DR-1」の研修

中級編

中級編として、DR-1 という音訳をするために必要な機材について、深く学ぶ機会となった。基本的な操作の復習から始まり、都度参加者よりはさまれる質問に講師は冷や汗をかいたと思われる。DR-1 の操作からその先の DAISY 編集を見据え

た録音方法について、検討できる材料となった。

初級編

参加者が少なかったが、講師とワンツーマンに近い形で指導を受けることができた受講者は、普段なら伺うことができないような疑問点までも講師に聞くことができ、充実した内容になったと考えられる。

3. 校正の研修

校正の研修は外部団体との協力により実施した。メディアテークとは校正の仕方などに違いがあったものの、校正の役割そのものに大きな違いはないため、大変参考になったようだ。今回は、経験豊富で何度も校正の講師を担当している音訳者が講師となり、指導いただいた。あまり教科書のようなものは使用せず、課題をもとに、校正表の答え合わせを行うような実践形式の講座となった。課題はきちんとポイントをおさえた「間違い」が最初から仕組まれており、わかりやすい「間違い」とわかりにくい「間違い」について、いかに判断できるのか、迷った場合はどうするのかなどについても説明があった。

音訳の校正は、誤読や読み抜けなどの他に、アクセントや雑音、声の強弱、間の開け方などもチェックする。しかし、すべての項目をチェックしていたのでは、膨大な量の校正が必要となってしまうため、校正が必要な部分をいかに重点的にチェックできるかが大事なこととなってくる。

今回の研修は今後の校正の在り方についても、考えさせられるよい研修となった。

したい。

今後の展開

来年度より、メディアテーク発行の出版物の制作を本格的に開始する。

年2～3冊をベースに作成し、10年以内にはすべての資料の音訳を完成させる予定である。

また、同時に3年以内にサピエ図書館へ音訳資料の登録ができるよう、準備を進める。全国の利用者に資料の提供ができるようにする。メディアテーク発行出版物以外にも所蔵資料とした資料を登録することを目指す。

また、今後も助成金をもとに、継続した研修会の開催を考えたい。

「処理の仕方」や「校正の研修」、「読み方の研修」など、音訳に必要な研修を行いたい。このような研修を続けることで、音訳の技術が向上し、よりよい音訳資料の制作が可能となる。また、ボランティアのモチベーションを上げ、制作について意欲的に取り組んでいただけるようにしたい。

今後も「より正確な音訳資料」の制作を目指し、ボランティアとともに活動していく予定である。

成果の広報・公表

音訳ボランティアからはぜひ研修を継続して開催してほしいという要望や違う内容や講師による研修についてもリクエストがあった。今後の参考と